日本民家園　花便り９月号（1）

～暮らしと植物～繊維の利用

ガマ　　蒲　　　　　　　　　　　　　　鈴木家裏

抽水植物の性質を生かし、葉や茎は編んで蓑（みの）・筵(むしろ)・簾（すだれ）に利用されてきました。また穂綿は火口（ほくち）に用いられました。花粉は「蒲黄」と呼ばれる生薬です。

ススキ　　芒・薄　　　　　　　　　　山田家前ほか

盆棚の下に敷く「盆ござ」をススキやマコモやカヤで作る地方が多くみられます。なかには、葉に斑の入った「鷹の葉ススキ」で作るオシャレな「盆ござ」もあります。

シュロ　　棕櫚　　　　　　　　　　　　高倉前ほか

シュロ皮の繊維は腐りにくく伸縮性に富むため縄・タワシ・ホウキなどに、葉は編んで帽子・敷物に、葉の軸を残して凧糸などで編み蠅叩きに！多種多様な使い道があります。

ヒノキ　　檜　　　　　　　　　　　　　広瀬家ほか

油分を多く含む樹皮は檜皮葺など建築材に利用されるほか、硝石をしみ込ませて火縄やタバコの火つけなどとして活躍しました。

ミツバアケビ　　三葉木通　　　　　　　伊藤家ほか

つるには弾力があり強靭でしなやかなので、魚籠をはじめ多くの生活用具に利用されてきました。籠網の材料としては最高品といわれています。